寄稿

札幌少年
ラグビースクール
事務局
　藤野　義治

札幌少年ラグビースクールが記念すべき開校30周年を迎えられたことを皆さんと共に心からお祝いしたいと思います。そしてこれからも同校が輝かしい飛躍と発展を続けて行けるよう期待し、努力したいと存じます。

今日のこの日は、ラグビーに強い関心を持ってくださった保護者の方々にご理解と温かいご支援を頂き、過去に指導に当たってくださったコーチの方々の志、さらに卒業生が築いてくださった伝統が脈々と流れ、こんにちの札幌少年ラグビースクールへと受け継がれて来た贈り物だと思います。この 30 年の間に約 100 人近くもの卒業生が巣立っていきました。札幌を始め全国あちこちで色々な分野で活躍し、大人になってもラグビーに関わっている人も沢山います。

本校がこの札幌に初めてのラグビースクールとして誕生し、しっかりと根づき、今日まで進み続けて来る事が出来たのは、数多くの人達の熱意や努力があった事を忘れてはいけません。移り変わる時代の流れの中で、例えばラグビーのルール、例えば人の考え方、各々の大切な事等も日々変わって来ました。伝統を守る事と昔の考え方を通す事とは違います。世の中の変化に上手に対応して行く術を大人も子供も学ばなくてはなりません。ただ変わってはいけないのは、この札幌少年ラグビースクールを守り育てていこうとする心だと信じます。

今回の震災後にあちらこちらで「ＯＮＥ　ＦＯＲ　ＡＬＬ」の文字を目にします。ラグビーの精神「ＯＮＥ　ＦＯＲ　ＡＬＬ　ＡＬＬ　ＦＯＲ　ＯＮＥ」は人としての大事な理念であると改めて感じました。

昨日より今日、今日より明日。新しく成長していくという気持ちを常に持ち、ラグビーの精神と良い伝統を受け継ぎ、未来に向かって「心豊かなたくましい人間」になって欲しいと願います。

30 周年を迎えるにあたり、準備・進行にご協力くださいました皆様には心よりお礼を申し上げます。

最後になりましたが、東日本大震災で被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に皆様の安全と、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

札幌少年
ラグビースクール
　会計
　　鯉渕　佳代

札幌少年ラグビースクール開校 30 周年おめでとうございます。

また、本当に皆様のおかげで 30 年を無事に迎えられたこと感謝申し上げます。

息子がラグビースクールに入りたいと言って、恐る恐る事務局の工藤さんに電話を架けたのが、今から約 10 年前。電話口の工藤さんは明るい声で優しくいろいろなことを教えてくださり、不安は電話を切った途端にふっとんでしまったのを今でも覚えています。

私のスクール入校はこのときから始まりまして、子どもたち（小学生）とラグビーをすると引っ張ってＴシャツは破くは、本気になってタックルして泣かすは…当時ババーリアンズと呼ばれ楽しんでいました。

自分の子が卒業してからも、到底足元にも及ばない工藤さんの代わりに、会計として３年スクールに関わらせていただいております。ひとことで 30 年と言うのは簡単ですが（実際にたった 3 年やらせていただいただけですが）、本当にたくさんの方のご苦労・ご尽力があってこのスクールがここまで来ることができたのだと今回の 30 周年記念行事・広告の協賛・広報誌の発行等にかかわり切に思った次第です。

皆様には、これからも未来ある子どもたちのためにも引き続きご指導・ご鞭撻ならびにご協力くださいますようこの場をお借りしてお願い申し上げます。

この夏休み、久しぶりに帰って来た息子に「ラグビーやって良かった？」って尋ねたところ…「まあね…スクール楽しかったし、仲間もできたし良かったんでない？」

そんな息子も今では 19 歳…おかげさまで、神戸で行われる全国大会に毎年出場させていただいております。私もスクールの子たちや女の子達にラグビーの楽しさを味わってもらうために頑張ろうと思います。